小路めぐり　津島市探訪

文化をめぐる

コース4 江戸時代の蔵と井戸の旅

オススメ　どなたでも

スタート
↓1000 m
①上切の井戸
↓600 m
②津島神社
↓320 m
③堀田家住宅
↓450 m
④堤下神社の井戸
↓60 m
⑤茶の間の蔵
↓55 m
⑥坂口町の井戸
↓140 m
⑦町家の蔵
↓80 m
⑧小之座通り（蔵の道）
↓180 m
⑨観光交流センター
ゴール
全長約 2885 m

津島は津島神社の門前町として、また湊町として多くのヒト・モノ・情報が集まり、農村や城下町と異なる町衆文化が成立しました。豊かな商人・豪農があらわれ、財を蓄えそれぞれの家が蔵を建てました。また彼らのもとで働く人々が集まり、津島は活気を呈しました。人口が増えれば水を確保するために井戸が掘られ、木曽川の伏流水が津島人を育みました。
今でも残るまちの名残を、あなたも蔵の所有者になった気持ちで思いを巡らせてはいかがですか…？

① 上切の井戸

上切と呼ばれた地域（現在の本町1丁目辺り）にある共同井戸でした。天王祭の舟や屋台を連結するわら縄を編む際、この井戸の水が打ち水に使用されていました。

② 津島神社

津島神社は明治の初めまでは津島天王社と呼ばれていました。疫病厄難除けにご利益のある神社です。

③ 堀田家住宅

江戸時代の町家建築で国の重要文化財です。尾張地方の豪商の暮らしを伝えます。
観覧日時：土・日・祝日10:00～15:00、観覧料：300円、平日は5名以上で要予約。
【問合せ】
社会教育課0567-24-1111

④ 堤下神社の井戸

堤下と呼ばれた地域（現在の本町2丁目辺り）の共同井戸でした。かつて津島のまちと津島神社（津島天王社）との間には天王川が流れており、堤下神社は対岸の天王社の遥拝所でした。この井戸はその際の御手洗の井戸としても使用されました。

⑤ 茶の間の蔵

⑤-1 戎徳呉服店の蔵

江戸時代から昭和初期まで栄えた呉服店の店蔵です。津島では珍しく街道沿いに蔵があります。

⑤-2 蔵ギャラリーつづら

SeasonCafe茶の間に隣接する蔵ギャラリーつづら。明治時代の蔵をレンタルスペースとして開放されています。作品展、演奏会、イベントなどの利用が可能です。

⑥ 坂口町の井戸

坂口町（現在の本町3丁目辺り）にある共同井戸でした。辻井戸として昭和10年頃までは使用されていました。

⑦ 町家の蔵

現在の本町筋と裏手側には高低差があり、本町筋に面している家々の蔵にはお城のような石垣があります。

⑧ 小之座通り（蔵の道）

津島では珍しく「蔵並み」が見えることから、近年「蔵の道」とも呼ばれるようになりました。蔵の石垣には「打ち出の小づち」など縁起物を模した石がさりげなく配置されています。当時の職人の技量と心遣いがうかがえます。

⑨ 観光交流センター

かつての津島信用金庫の建物を再利用したものです。敷地の奥に内部を茶室に改造した「蔵」があります。
【休館日】月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日

作成：小路めぐりマップ策定部
橋本建夫　大橋泰彦　丹羽登志明　堀川浩正　稈井敏子　大橋忠彦
恒川一三　岩崎勝明　菱田真也